

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3771400482
法人名	特定非営利活動法人ほととぎすの会
事業所名	グループホームほととぎす
所在地	香川県高松市香川町川東下672番地5 (電話) 087-879-0797

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価決定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】(19年 8月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 14人、非常勤 2人、常勤換算 13.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 8日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	60歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おさか病院 綾田医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは木造平屋建てで、玄関を入ると、1、2ユニットをはさんで中庭があり、その庭に木や季節の花が植えられ、屋内も明るく生活に適していて、利用者は、その人らしく暮らしていることがうかがえる。</p> <p>「ほっとする、となり同士の笑い顔、共に暮らす、気の合う仲間、すめば都のほととぎす」という運営理念を、職員は日々確認しながら、利用者と共に暮らせる生活を前向きに考えている。</p> <p>近隣との関係も積極的に行っており、馴染みの関係ができています。また、食事作りにおいて、利用者の能力に合わせてみんなが楽しんで作れるよう支援している。</p>
--

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価での意見を前向きに捉え、職員間で自己評価を行い、質の確保を目指して、職員全員で改善が図られるよう取り組むよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の日々の様子や言葉、ケアの実践結果、気づきを記録し、職員は、定期的に行っているミーティングやカンファレンスで話し合い、情報を共有しながら、介護計画に役立てている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの状況、職員の状況、入居者の状況について話し合ったり、出席者からの意見や要望について話し合っているが、出席人数が少数と思われるので、運営推進会議で充実した取り組みができるよう今後の会議の進展に期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪れた時に、話し合いながら意見や苦情を伺っている。また、苦情受付簿を活用しながら、職員全員が自己評価し、質の向上を目指して勉強会などを開くなど、前向きに取り組み、反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会行事に参加したり、小学生や幼稚園児が定期的に訪れ、踊りなどを披露してくれている。また、散歩時に地域の方にあつたときは、お互いが挨拶したり、声かけをしており、今後、なお一層の連携が深まることを期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として「ほととぎす」と示し、一字一字に意味を含めて作成された理念を、人目を引く玄関やホール内に、大きく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎日の申し送りや朝礼時に、理念を復唱し、ホームの方針などを確認したうえで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や催し物への参加については、先方より連絡があり、参加している。また、職員をはじめ利用者も、近隣者には挨拶をして顔見知りとなり、親しみが深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、勉強会等で自己評価や外部評価の意見を前向きに捉え、職員全体が意見を出し合いながら、改善に向けて取り組んでいる様子が見えてくる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、問題点など意見交換を行い、また、地域への情報等は、実践に向けて取り組んでいるが、出席人員が少なく、低調であるように思われる。	○	有意義な運営推進会議が開催されている様子であるが、管理者も推進会議への同席ができるよう、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には、市職員、地域包括支援センターとの連携をとり、意見交換などをスムーズに行っている。また、利用者について、相談に応じてもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでは、毎月1回利用者の家族へ、金銭出納や連絡事項に合わせて、利用者のホームの様子を写真に納め、送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームでは苦情受付簿を活用し、家族の意見を口答で聞いたり、家族の会等での意見を苦情受付簿に記載して、職員の勉強会で検討し、反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員と利用者が馴染みの関係が作られるように、職員の異動は最小限にしている。やむを得ず交代する場合は、職員間で検討して、利用者のダメージを少なくするよう工夫している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者が職員育成を認識しており、ホーム内での勉強会や外部研修等への参加ができる。また、新しい職員には、新人研修を行ったり、指導担当者をつけ、一緒に業務を行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県グループホーム協議会に加入しており、他の状況を伺ったり、見学する等、お互いに勉強会を持ちながら、質の向上を目指している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスが受けられるよう、事前に職員が訪問したり、家族や本人にホームへ来てもらい、徐々に馴染みを持ちながら、利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりに向き合い、家族の一員として、きめ細かく支援している、また、利用者も能力に応じて、手ぎわよく昼食の準備に集中しており、共に暮らし、支え合っていることがうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしく暮らせることをもとに、本人や家族より希望や意向を伺い、利用者の視点に立ち、職員全員で意見交換しながら、取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族関係者と話し合い、希望や意見を取り入れながら、本人のできるどころから介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的見直しは3か月に1回実施しており、利用者の状況や変化によっては、家族の意向を伺い、臨機応変に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望がある場合は、その人らしく暮らせるために職員間で話し合い、支援の仕方を本人、家族に伝えながら、柔軟に対応するようにしている。職員は、継続した支援を大切にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人にかかりつけの医師がいる場合は、家族や本人の意向を大切にしている。また、事業所の協力病院を利用する場合は、本人家族の同意と納得を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、家族と話し合いながら、その都度、本人や家族の意向を確認して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、職員は個人情報の取り扱いについて、秘密保持の原則を徹底するように話し合っている。また、利用者の自尊心を大切に考えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の能力を大切にして、手芸や書道、絵画など、利用者のできること、やりたいことを引き出し、個々が実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と共に、能力に応じて、昼食の準備から片付けまで極自然的であり、男性も役割をもち、楽しんで料理を作っている。職員と一緒に食卓を囲みながら、体調不調な利用者には気を配り、家庭的な雰囲気を保っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望に合わせた入浴を支援している。時には時間が過ぎても入浴したくない利用者があるが、無理強いをしないように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしのために、近くのマーケットに出かけ、自分の好みのものを買ったり、周囲を散歩したり、利用者の希望に添うよう心がける。また、野菜作りをしたり、花の手入れ等、役割や楽しみを取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者には、毎日ホームの周辺を散歩したり、自家用車を使用して空港周辺を散策したり、重度の利用者には車いすを利用している。職員は、できるだけ外出支援を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけることなく過ごすことを、職員全員が理解して実践している。また、利用者が外に出るときは、さりげなく後ろからついて行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の避難訓練を実施しており、消火器の使用方法や夜間の搬送方法を習っている。	○	利用者一人ひとりにあった避難誘導、利用者の状態を踏まえた避難策、懐中電灯、災害に備えた備品等の再検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回、体重測定を行い、体重減少の利用者には、食事の量、水分の量、残食を記録して、栄養状況を把握している。栄養吸収の悪い利用者は、主治医の指示で、栄養補助食品等を補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者が横になれるように、畳コーナーや椅子等が用意され、自由にくつろぐことができる。リビングの中央には庭園が造られ、木や草花を植え、季節感を採り入れて、心地よく過ごせるよう雰囲気作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はどの部屋とも明るく、窓からは自然の風景が美しく見える。利用者は、使い慣れた物品や好みの写真、置物を持参され、落ち着いた雰囲気の中で生活されている。		